中日新聞（夕刊） 2011年（平成23年）5月13日（金曜日） ©中日新聞社 2011 （日刊）

中日新聞 夕刊
発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

紙つぶて

科学者の名言

森 郁恵（もり いくえ）

七年間にわたる留学から帰国し、線虫の神経科学に取り組んだ。直感的に最終着地点はみえていたが、到達までの研究方針が定まらず、悩みに悩む日々が続く。日本の研究文化に適応できないまま、孤独感で押しつぶされそうになる。人生の大ピンチだ。

そんな私を救ったのは、科学者の名言だ。中でも寺田寅彦の言葉は特効薬だった。彼は、明治から昭和初期の物理学者で東京帝国大学教授を務めた。第五高等学校では、英語教師だった夏目漱石の下で文学に親しむ。優れた俳人であり随筆家だった。

寺田寅彦の随筆は、弱り切った精神に「悩んでこそ、生きた科学の実践者」とささやいてくれるようだった。ありのままの私を優しく肯定してくれていると感じた。

彼の関心は森羅万象におよぶ。軸のぶれない科学的視点と豊かな芸術的感性から、それらを描写し、論じ、未来を予測する。彼が予測したほとんどは、その後、現実となった。その洞察力には驚く。

「科学者とあたま」には、科学者としての教訓が列挙されている。「科学者になるには自然を恋人としなければならない。自然はやはりその恋人にのみ真心を打ち明けるものである」「けがを恐れる人は大工になれない。失敗をこわがる人は科学者にはなれない」。名言がそこかしこにあり、枚挙にいとまがない。

この随筆は科学者への警告で終わる。「科学は万能ではない」。大震災に遭遇し、認識を新たにする言葉である。

（名古屋大教授）

2011.5.13

2011.5.13 1面 No.17